

(別紙3)

神奈川県における効果的な捕獲に係る新技術の地域実証評価報告  
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類、技術名、実証地域及び時期

指定管理鳥獣名	イノシシ
技術名	わな捕獲に係る遠隔監視システム
実証地域	県西地域
実証時期	令和元年10月～令和2年3月

注：実証地域の位置が分かる地図を添付すること。

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

県西地域では、過疎化に伴い発生した耕作放棄地がイノシシの隠れ家となり、農作物被害及び生活被害が発生している。しかし、急峻な地形等による捕獲困難地が多いことや、高齢化等により捕獲の担い手が不足していることから、一部の地域では対策が進んでおらず、生息密度が高まっていると考えられる。

3 地域実証する技術の概要

【遠隔監視システム（オリワナシステム）】

わなの作動状況をクラウドサーバー上で一元管理し、端末で確認できるシステムを運用する。（※別紙参照）

注：実証する技術の写真や内容等の概要が分かる資料を添付すること。

4 具体的な実証の方法・内容

同地域のうち捕獲圧が十分でない地域を中心に、ICT機器等を活用した捕獲を実施し、新たな捕獲手法による効果を検証するとともに、生息密度の低下を図り、周辺地域への分布拡大を防止する。

《検証内容》

- ①通信情報の信頼性について  
システム（親機・中継機・子機等一式）設置場所や地形（山間部や谷戸地形）を踏まえた上で、わな作動時の通信情報の信頼性を評価する。
- ②作動情報の信頼性について  
わな作動情報と捕獲の成否（誤作動の有無）の信頼性を評価する。
- ③システム運用の満足度  
見回りや止めさしに係る負担軽減や対応スピードなど、捕獲従事者としての視点から、システムの運用について評価する。
- ④システム運用の妥当性  
受託者との事後打合せにおいて、システムの使用感や負担、改善に向けた課題などを整理する。

## 《評価結果》

### ①通信情報の信頼性について

電波の受信範囲に限られることが一般的な通報システムの課題であったが、今回使用した機器は実施エリア全域で通信状況はおおむね良好であった。(運用期間 51 日間のうち通信不良による現地確認は 3 回であった。)

### ②作動情報の信頼性について

期間中イノシシ 1 頭の捕獲があり、正常に作動通知を受け取った。  
一方で、動物がかかったが磁石がうまく外れず通知が来なかった事例が 1 件、何かワイヤーに触れたため、捕獲はないが通知が来た事例が 1 件あった。これらは、通信機能上の問題ではなく、通信機器とわなをつなぐ導線の設置方法の問題であるが、作動情報を確実に受け取るためには、通信機器とわなのつなぎ方を工夫し、動作確認の作業を入念に行う必要があることがわかった。

### ③システム運用の満足度・④システム運用の妥当性

37 日間のわなの稼働期間中、見回り等で現地に行った回数は 19 回であり、見回り負担を軽減する事が出来た。また、作動通知の有無で事前にわなの状況を把握できるため、現地で作業者がわなに近づく際の心理的な不安感が少なくなるというメリットがあった。

一方で、捕獲の実施者からは、機器とわなを繋げる作業時間や、機器設置に適した木の有無など、設置に際して制約が生じるとの声が聞かれた。

また、特にくくりわなについては、わなのこまめな管理が捕獲効率に影響するため、機器を使用した場合でも、週に 3 回程度の定期的な見回りは必要であると考えられた。実際、定期見回り時に、わなに泥が詰まり正常に作動しなくなっていた事例や、空弾きをしていた事例が見られた。

これまでの実証事業も踏まえると、通信機器によるわなの監視は、くくりわなに比べて管理が比較的簡単な箱わなにおいて効果を発揮すると思われる。

注 1：2 の課題等を踏まえた技術実証の方法や内容を具体的に記入すること。

注 2：事業終了後の評価報告においては、注 1 を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

## 5 その他

注：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

<実施区域位置図：県西地域>

